



スマートフォンで  
広報たじみを  
持ち歩く！

編集発行 多治見市役所 企画部 秘書広報課  
〒507-8703 岐阜県多治見市日ノ出町2丁目15番地 ☎0572(22)1111  
FAX 0572(24)3679 E-mail niyoko@city.tajimi.lg.jp  
http://www.city.tajimi.lg.jp/ [E/P/Ver.版]http://www.city.tajimi.lg.jp/mobile



多治見市緊急メールに登録してください  
携帯電話に緊急情報を送信します  
https://service.sugumail.com/tajimi

## 合唱との出会い

4歳からピアノを習っていた私は、高校(恵那高)で合唱に目覚めました。東濃地区では多治見北高いつも優勝を競い合うような合唱が盛んな高校でした。高校でのこの経験があったため大学は声楽科へ進みました。結婚して多治見に住むことになり、かつてのライバルだった多治見北高の合唱部の子たちと再会して、今は本当に仲良くさせていただいています。

## 歌えることの喜び

市内の公民館で歌を教えるようになって、約10年経ちます。みんなが知っているような童謡や唱歌を歌っているのですが、この公民館も百人近くの方が参加されています。旭ヶ丘公民館では男性ばかりの「おやじの合唱団」が活動しており、駅北庁舎の落成式や市民農業祭などに出演させていただき

ました。公民館講座の受講生はシニアの方がほとんどですが、なぜこんなに楽しそうに歌うのだろうかと思議でした。「この講座は自分がやっていいのだろうか」と思ったこともありましたが、しかし最近になって、教えているという



陶都楽友協会  
さいとう じゅんこ  
齊藤 順子(本町)

より、反対に私が学ばせていただいているんだと気が付きました。私にとって音楽は常に近くにある当たり前のものになってしまっています。皆さんは、月に2回の講座で歌えることを喜びと感じてくれます。「音楽やってやっ

くぱりいいな」と気付かせてもらえます。  
**子どもの未来のために**  
シニアの方が今こんなに楽しく歌えるのは、子どもの頃、童謡や唱歌をたくさん歌い、楽しい思い出

が体に残っているからだと思えます。今の子どもがシニアになったとき、同じように楽しく歌えるかというところが違うような気がします。たじみ音楽祭の委員をやらせていただいているが、「オーケストラと一

緒に歌いましょう」という企画で参加者を募集すると、シニアの方がほとんど。本当は子どもたちにも舞台に立てる機会が多くあるといいと思っています。音楽が嫌いな子どもはいないので、少しでも音楽と触れ合える環境が整うといいと思います。

戦後に子どもたちの気持ちを豊かにしてあげたいという願いで、東京で「音羽ゆりかご会」という合唱団が立ち上がりました。寺などに子どもが集まってきて歌を歌うというものですが、私も多治見で学校帰りの子どもを対象に同じようなことがしたいと思っています。塾やクラブがあつて忙しいと思いますが、子どもの未来のために道を作っていくことは、大人の責任と考えます。音楽はいつまでも体に残ります。今の子どもたちがシニア世代になった時に、心豊かになる歌が体に残っているといいなと思います。



# ひと 輝く女性

本連載では、市内の事業所や地域など、さまざまな分野で活躍する女性のインタビューを掲載します

人口と世帯数の動き	
平成28年9月1日現在	
総人口	
112,799人	(前月比 -88人)
男 54,924人	(前月比 -43人)
女 57,875人	(前月比 -45人)
世帯数	
45,631世帯	(前月比 -5世帯)

**200円バスでどこ行こう**

ききょうバスへの乗継券でお得!

ききょうバス100円分の運賃が無料になる乗車券がもらえます。多治見駅で東鉄バスを降りる時、運転手さんに「乗継券をください」が合言葉。東鉄バス・ききょうバスからききょうバスに乗り換える場合に、

**多治見市内 平日10時から16時 1乗車200円の東鉄バスで!**